

ZEN RAKUREN 全酪連会報 8

2025 AUG No.719



若手後継者の本音／
澤瀬泉織さん

第76年度(令和7年度)
通常総会開催される 概要

購買生産指導部だより／
DMSシステム 令和6年集計結果

第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会
酪農経営発表の部

日本酪農見て歩紀／
前田牧場
(大阪府堺市)

父の日に牛乳を贈ろう! 後編

酪農トピックス／
全国農協乳業協会
「令和7年度クレーム対応研修」の開催について
(酪農部)ほか

第15回酪農いきいきフォトコンテスト
入賞作品紹介

人事異動

全酪新報ダイジェスト版

全酪連ギフト商品について

全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>

COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会

奥中山（岩手県二戸郡二戸町奥中山）は岩手県北部にあり、仙台からは北に220kmの位置です。岩手県盛岡市と青森県八戸市のちょうど真ん中に位置します。東京から青森までの国道4号線500kmの間で一番標高が高く、西は奥羽山脈、東は北上山地の接点に当たる標高300m～1,000mの高原地域です。奥中山高原は、いわて銀河鉄道奥中山高原駅や新岩手農協事務所を中心に、東西9km、南北8kmの約8,000haで、酪農・畜産・高原野菜を主とした純農村地帯です。

就農までの経緯

●就農までの経緯を教えてください

澤瀬家は戦後、開拓で奥中山に入植し、曾祖父の代に当時飼っていた馬を売却して乳牛5頭を導入したことから酪農業を始めました。祖父の代で牛舎拡張を行い現在に至ります。今回取材した泉織さんは祖父から引き継ぎ3代目になります。



▲ 澤瀬泉織さん



▲ 増設した換気扇



▲ 牛舎内



▲ 牛舎内

泉織さんは両親の仕事の関係で、祖父母とは別に盛岡市内に住んでいましたが、中学生の頃に祖父母宅へ両親と引っ越しました。以降、朝夕方時間があれば牛舎作業手伝いをしたそうです。日々の手伝いを通し、「将来は自分で牛の管理をしてみたい」と思うようになり、県内の農業高校に進学し、大学は帯広畜産大学別科（酪農専修）に進み学びました。

就農してみて

●就農しての感想

大学卒業後すぐに実家に就農しました。大学

で多くの内容を学びましたが、不足している点もありました。草地管理・畑作業は父から本格的に教わりました。牛の管理については繁殖管理を一任され、周囲の酪農家に教えてもらいながら学んだ知識を活かし自分で考えて牛群改良に取り組みました。所属農協での若者の集いや共進会を通じて同世代の仲間ができ、交流を通して互いに切磋琢磨できる環境となりました。奥中山は酪農家比較的多い地域で、先々代から続く地域の酪農仲間、先輩がいるので困った際の相談がしやすい環境です。

就農後、搾乳売上も伸びた事で令和6年11月



▲ 分娩管理盤



▲ 給与準備された牧草



▲ 乳頭洗浄機



◀ バルク室
▼ 牛群配置図



▲ 哺乳子牛

若手後継者の 本音

Vol.76

〔経営概況〕

所 属 新岩手農業協同組合（刈谷雅行代表理事組合長）
家族構成 祖母、ご両親、本人
施 設 43頭搾乳牛舎、育成牛舎、堆肥舎
牛 群 令和7年5月牛検より 経産牛35頭、育成牛20頭、経産牛1頭当たり年間乳量11,500kg、乳脂肪3.87%、乳蛋白質3.37%、無脂固形分8.89%

目指す将来を考え、皆さん共に 酪農を頑張ります(頑張りますよう)!

将来は？

将来の目標として、規模拡大、ロボット搾乳を目指しています。また、ゲノム情報をつまく活用しながら、ロボット搾乳にも合う牛群を作りたいと考えています。現在の課題は繁殖、特

に法人化を行い、専務に就任しました。将来は規模拡大も視野に入れています。残念なことに、今年5月祖父（利男さん）が急逝し、3代目として相続・事業継承手続きをしています。

クラシックファーム株式会社はNON-GMO生乳を生産し、パルシステム（生活協同組合連合会）を通じて消費者へ届けられています。消費者との交流会が行われ、直接意見が聞くことができ営農の励みになります。



全国の若手後継者の皆さんへの一言！



酪農は自分次第で多くの事に可能性が広がります。私は自分で動いて色々チャレンジしたいと考えています。酪農は裾野が広く様々な知識が必要と実感しています。色々な人と関わって情報収集、日々アンテナ張って取り組んでいます。物価高、人手不足で人件費も高騰、収益を上げづらい環境ですが、目指す将来像をしっかりと考えて頑張りますよう。

に夏場の繁殖成績と考えています。数年前に換気扇を増設し舎内の空気を強制的に排出、以前に比べ空気の流れもできて涼しく感じるようになりましたが、近年は異常とも言える暑さが多く、岩手でも暑熱対策が必要不可欠となりました。人も牛も過ごし易い環境を整えたいと考えています。（取材：S・T）

第76年度
(令和7年度)

通常総会開催される

概要

本会は、7月24日(木)13時より、TKPガーデンシティ PREMIUM京橋(東京都中央区京橋)において、第76年度通常総会を開催し、令和6年度の事業実績、剰余金処分案、令和7年度の事業計画案などの承認を得るとともに、役員の補選を諮りました。



令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画

(単位:百万円)

科 目	令和6年度実績 ①	令和7年度計画 ②	②/①対比
酪農事業	36,407	34,692	95%
〈取扱金額〉	(7,618)	(7,309)	96%
購買事業〈取扱金額〉	91,768	89,451	97%
総取扱金額	128,175	124,143	97%
	(99,386)	(96,761)	97%
事業総利益	11,776	11,393	97%
販売費用	8,199	8,359	102%
事業管理費	3,117	3,160	101%
事業利益	460	-126	-
事業外収益	1,948	1,451	74%
事業外費用	1,216	947	78%
経常利益	1,192	378	32%
特別利益	7	0	0%
特別損失	32	70	216%
税引前当期利益	1,166	308	26%

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

※()の取扱金額は、「生乳」の全国再委託販売手数料等の金額、及び当該金額を取扱金額とした合計値。

収支計画の売上高及び損益計算書の事業収益は、この金額で表記する。

本総会には来賓として、農林水産省・長井俊彦 畜産局長、農林中央金庫・爲井清文 常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議等、関係団体からもご臨席をいただきました。

総会は、中島清氏(ふくおか県酪農業協同組合 代表理事組合長)を議長に

選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第5号議案「役員の選任の件」において、役員補選を行い、新たに役員を選任しました。

(新役員については、左記のとおり)

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。

新役員体制決定

本通常総会において役員の補選が行われ、下記のとおり新役員が選任されました。

また、通常総会終了後に開催された第565回理事会において、熊谷専務理事に代表権が付与され、遠藤俊之氏が常務理事に選任されました。



●代表理事専務

熊谷 法夫

実務精通役員
常勤



●常務理事

遠藤 俊之

実務精通役員
常勤／新任



●理事

石田 誠

茨城県酪農業協同組合連合会
非常勤／新任



●理事

鈴木 重充

標茶町農業協同組合
非常勤／新任

DMSシステム

令和6年集計結果

1 DMSシステム事業の概況

DMSシステムが運用され始めてから今年で18年目を迎えました。図1は、生産者の皆様に事業をご利用頂いた戸数の推移です。A・Cプランの方には、令和4年より運用を開始した会計ソフト「Z・R・A・B・O」をご利用頂いておりますが、この3年間に於けるA・Cプランのご利用件数は160件程度と増減がないものの、開廃業等に伴い約2割の利用者が入れ替わりました。ご利用者数は未だ少ない状況ですが、昨今の厳しい酪農経営環境の中において、少しでも酪農経営管理に有益なツールとしてご利用いただけるよう、今後DMSを通じた支援の継続に努めて参ります。

2 令和6年の酪農経営概況

表1は、令和2年～令和6年までの牛群動態、収入、支出及び所得の推移について、DMSシステムで経営管理をしている農場の平均値を経産牛1頭あたりとして示したものです。例年、比較的家庭経営に近い法人10戸余を含む経営を集計対象としており、令和6年データにおいては、95戸の平均を使用しています。

3 牛群動態と生産指標

令和6年では、集計農場が前年度と異なることから平均飼養頭数については若干少ないデータとなっていますが、平均出荷乳量は概ね9,000kgと、前年までとほぼ同じ水準です。死廃率（価格が付かず除籍された牛が平均飼養頭数に占める割合）は集計5か年の平均は10・

0%であり令和6年も同水準の10・8%となっていますが、更新率は29・5%と、昨年に続きやや高い数値となっています。

乳飼比については、58・9%と、昨年に比べ1・6ポイントの減少となっています。輸入飼料価格は令和3年から令和4年にかけて顕著に上昇し、その後も高い水準で横ばい推移となりました。その影響を受け、1頭当りの飼料費は集計5か年については毎年最高値を更新しつづけています。一方で、乳価の上昇による生乳売上高の上昇が、昨年に引き続き飼料費の高騰を支えた収支構造となっており乳飼比を押し下げたといえます。

4 総収入は前年に比べ大幅上昇

収入の内訳をみると、乳価上昇に支えられ、生乳売上高が大きく上昇しています。乳価は令和4年の11月以降、段階的に上昇してきました。乳価が上がる前の令和2年に比べ令和6年では経産牛1頭あたりの生乳売上高は約19万円上昇しており、これは平均生産乳量によって乳単価に直すと21円/kg程度に相当します。令和3年以前に比べた現在の乳価を20円/kgの

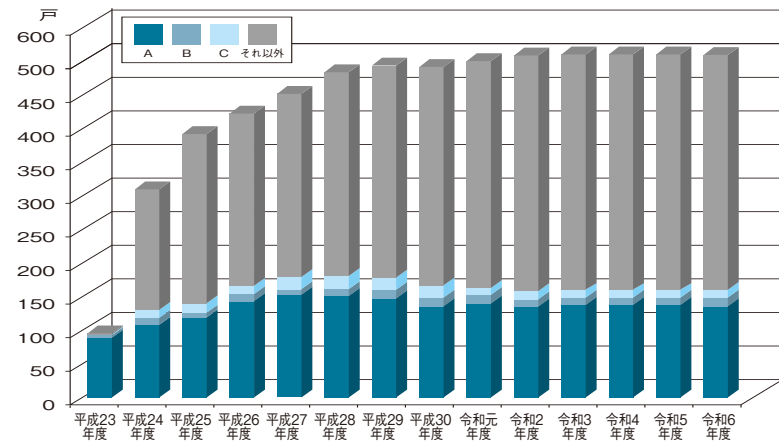
上昇と考えれば、令和6年は上昇分がカバー出来た状況になったかといえます。

一方で、副産物収入である肉用子牛売上高は、相場の下落から非常に低い水準となっています。また、補助金を始めとした各種飼料高騰対策費は飼料価格の乳価への価格転嫁を受け減少に転じたことは、雑収入が減少に転じた大きな要因と思われます。

5 総支出も大幅に上昇

令和6年の経産牛1頭当たり総支出は、1,405,060円と、前年に比べ約3万円上昇する結果となりましたが、概ね物価上昇の影響によるものであるといえます。科目別の内訳をみると、最も大きな上昇は育成振替高の1万7千円であり、続いて飼料費が前年に引き続き約1万円上昇しており、続いて荷造運賃手数料、廃牛売却原価、諸材料費の順に上昇しています。また、動力光熱費もエネルギー価格上昇の煽りを受けて年々上昇している状況であり、飼料費以外の生産コストについても引き続き状況を注視していく必要があるといえます。

図1 DMSシステム参加農家戸数(令和7年3月末現在)



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
Aプラン	81	106	120	142	151	153	149	136	145	145	141	142	141	136
Bプラン	7	9	8	8	12	9	12	14	12	9	11	11	12	13
Cプラン	2	17	17	17	19	21	20	20	9	9	9	9	9	9
それ以外*	3	174	243	249	265	295	301	314	316	327	339	341	341	341
合計	93	306	388	416	447	478	482	484	482	490	500	503	503	499

* それ以外…DMSシステムのデータベースを利用した経営分析の実施や経営相談の依頼を受けた戸数(累計)

6 「家族所得」「酪農フリーキャッシュ」は回復傾向

以上のような収入・支出概況から、令和6年の収支は、家族所得で121,115円/頭、酪農フリーキャッシュで218,137円/頭となり、令和5年に比べ回復基調となりました。しかし、飼料高騰前であった令和2年と比較すると、依然

として所得・フリーキャッシュとも7・5割に留まっています。一方で借入金償還額は、20,961円/頭増えており、キャッシュ残は6割に満たない状況です。このことから、現在の酪農環境では、経営者が投資と償還に十分計画性を持つこと、さらに経営者が収支の向上に努めるに当たり個々の経営手腕を支える地域関係者の協力体制がこれまで

以上には十分機能することも求められているかと思われます。

令和7年決算では、資材費や物流経費の上昇分が8月の乳価改定により価格転嫁されるよう見込まれるものの、改定時期が生乳不需要期の夏場のため、実感としてはやや先に感じられるかもしれません。

7 今後の見通し

令和7年決算では、資材費や物流経費の上昇分が8月の乳価改定により価格転嫁されるよう見込まれるものの、改定時期が生乳不需要期の夏場のため、実感としてはやや先に感じられるかもしれません。

今後、引き続き不透明であることから、引き続き予断を許さない経営環境は継続するものと思われる。まずは、現在置かれた収入・経費の水準で経営継続しうる損益分岐点の把握や主産物収入を確保するための後継牛確保戦略を立てた上で、経営に臨むことも重要といえるでしょう。

表1 酪農経営の変化

経産牛1頭当たり(円)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年差
牛群動態/主な指標						
経産牛頭数	53	54	54	46	45	-1頭
平均出荷乳量(kg/頭)	9,088	9,015	9,134	9,025	9,031	6kg
更新率	26.5%	26.3%	29.9%	29.0%	29.5%	0.5%
死廃率	9.3%	9.3%	11.6%	8.9%	10.8%	1.9%
乳飼比	54.2%	57.4%	63.9%	60.5%	58.9%	-1.6%
家族所得率	12.0%	9.1%	4.5%	7.4%	7.9%	0.5%
総収入	1,330,788	1,328,709	1,360,769	1,483,153	1,526,175	43,022
生乳売上高	1,027,112	1,021,257	1,038,543	1,169,327	1,218,072	48,745
肉用子牛売上高	136,346	132,960	112,878	78,099	90,070	11,971
廃用牛売上高	28,717	29,042	33,343	32,389	34,237	1,848
その他売上高	23,955	18,538	20,174	43,884	50,216	6,332
雑収入	114,658	126,912	155,831	159,454	133,580	-25,874
総支出	1,170,547	1,207,248	1,299,323	1,373,370	1,405,060	31,690
雇人費	42,917	41,601	56,475	46,538	46,073	-465
飼料費	552,923	580,412	663,441	707,075	717,155	10,080
診療衛生費	31,744	32,863	35,612	37,530	38,293	763
動力光熱費	50,631	54,236	56,756	58,884	63,110	4,226
共済掛金	32,163	35,497	27,634	31,249	31,051	-198
修繕費	40,940	42,586	36,142	43,801	44,212	411
支払利息	1,940	2,704	1,920	2,254	3,668	1,414
減価償却費	176,869	183,563	171,881	182,858	178,223	-4,635
その他経費	240,420	233,786	249,462	263,179	283,275	20,096
家族所得	160,241	121,461	61,446	109,784	121,115	11,331
酪農フリーキャッシュ	290,348	256,139	141,972	186,676	218,137	31,461
借入金償還額	64,982	67,758	84,428		85,943	
キャッシュ残	225,366	188,381	57,544		132,194	

※いずれの年も都府県の全酪連DMS利用者を集計範囲とし、令和5年:96戸、令和6年:95戸の集計。

※酪農フリーキャッシュ=家族所得+減価償却費-育成振替高+廃牛売却原価

全国酪農青年女性酪農 発表大会

酪農経営発表の部

去る、7月17日(木)～18日(金)の両日、岡山市の「ホテルグランヴィア岡山」において460人を超える全国の酪農生産者および関係者が参加し、「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」を開催しました。

酪農経営発表の部

高木 大輔さん(九州会議)が農林水産大臣賞を受賞!!

酪農意見・体験の部

椎谷 美保さん(東北会議)が最優秀賞を受賞!!

古川 真弓さん(九州会議)が審査委員長特別賞を受賞!!



▲ 全国酪農青年女性会議 中村委員長

開会式での主催者のあいさつで、全国酪農青年女性会議の中村委員長は、来賓や出席者の方々へ日頃の感謝の意を述べた後、『ここ数年で何

度かの乳価の値上げがあったが、それに伴い店頭価格も上昇している。我々には喜ばしいことだが、消費者は値上げに躊躇するところがあるだろう。最近のいわゆる令和の米騒動、あれも消費者にきちんと理解していただければ、農家が悪いのではないかと、農協が悪いのではないかと、国が悪いのではないかとという考えは出なかったのではないかと考える。今だからこそ、日頃行っている理解醸成活動は大変重要なことと考える。』



▲ 全酪連 限部会長

また、全酪連の限部会長は、昨年11月に福岡、熊本両県において我が国で初めてとなるランピースキン病の発生で被害に遭われた酪農家の方々に見舞いの言葉を述べ、拡大防止に努めた関係者の苦勞をねぎらったのちに、『将来の酪農に関わる組織のリーダーを作り出すこともこの大会の目的の一つ。仕事をする上でネガティブになつてはいいものならない。どうせ仕

と述べ、続けて、『今日の発表内容は、このような情勢下でも利益を出して良い経営をしている発表が聞けると思う。この発表を聞いていただき、それぞれの家に持ち帰り、明日からの経営に役立てていただければと思う。また、参加いただいた皆様は、横の繋がり、酪農家同士の繋がりを大切にしてください、懇親会も含めて楽しんで、日頃の英気を養っていただければと思う』と述べました。

事をするのであれば、やはりポジティブに、前向きに考えて、そうすれば必ずと経営は上向いていく。牛舎にはお金がたくさん落ちている。一つずつ解決していけば、必ず利益が出てくる。』と述べました。また、『アジア圏での牛乳乳製品の消費はまだまだ伸びていく見込みと言われており、日本国内でも730万トンの生産量に対して、需要は生乳換算で1,200万トもある。関係機関、関係業者と一緒にしながら国産生乳を使用していくという環境を作り上げていくということが大切だと思ふ。必ずいい世界がやって来ると思っている。酪農は絶対に潰れないので、皆さん、自負しながらやっていただきたいと考える』と述べました。



▲ 農林水産省中国四国農政局 郷局長

来賓の農林水産省畜産局局長の長井俊彦様（中国四国農政局局長の郷達也様による代読）は、『全国酪農青年女性酪農発表大会が盛大に開催

されますことを心よりお喜び申し上げます。また、日頃から我が国の酪農畜産の発展にご尽力いただきこの場をお借りして厚く御礼申し上げます』と感謝を伝え、『本年4月に公表した新たな酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針では、生産者と乳業メーカー双方が一体となつて需要拡大に向けた取り組みを拡充し、酪農や牛乳乳製品のさまざまな価値を見出し広く訴求していくことや、国産飼料に立脚し安定した生産基盤を実現していくことの重要性を位置付けました。農林水産省としても、引き続き業界が取り組む牛乳乳製品の需要拡大や脱脂粉乳の在庫低減を支援することで生乳需給の改善を図ってまいります。また、長命連産性に優れた強健な乳用牛群への転換や、適切な飼養管理による分娩事故の抑制などを通じて生涯生産性を高めるとともに、国産飼料の生産利用の拡大の支援等の各案の施策を講じ、生産コストの削減と酪農経営の安定を図ってまいります。今後の我が国酪農の未来を担うのは皆様方です。今回発表いただく酪農経営における様々な工夫や成果、地域での活動がお互いの生産者に

とつてお手本となり優秀な経営者が多く育っていくことを期待しています。』と祝辞をいただきました。

祝辞は、岡山県副知事の尾崎祐子様、岡山市長の大森雅夫様（岡山市産業観光局産業政策担当局長の林原瑞気様代読）からもいただきました。

開会式に引き続き、長きに渡り全国酪農女性の役員を務めあげた小倉越子氏（西日本会議）、引頭玉枝氏（北海道会議）、池田辰実氏（北海道会議）の3名に対し功労者表彰が行われ、記念品が贈呈されました。

酪農経営発表の部は、各会議から選出された6名により行われ、①酪農経営の収益性、②経営の安定性・発展性、③飼養管理技術水準、④資源循環型酪農の実践、⑤食品の安全性への配慮、⑥組合・地域活動の貢献の6つの観点から慎重に審査が行われました。発表内容は、審査委員長による審査講評にてご紹介いたします。

酪農経営発表の部 審査講評

今回発表された6名の方々は、それぞれ異なる地域特性や地域資源を上手に活かしながら、最新の技術に



審査委員長 原田淳 教授
（宇都宮大学地域デザイン科学部）

関心を持ち実践で活用していることは特筆されます。その上で、昨今の厳しい経済環境にもかかわらず収益性の確保を、粗飼料自給あるいは地域資源を活用した粗飼料調達を基盤として実現していることは、注目に値します。堆肥の利活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいるだけでなく、酪農文化の普及に熱心に取り組む事例も見られ、今年もまた審査委員一同大いに感心いたしました。



「畑のおじさんになりたくて」
第二章 しのおのめファーム奮戦記
決意と希望のメッセージ
関東甲信越酪農青年女性会議
前田匡彦 氏

前田さんは、小さい頃から農業にこがれ、学校法人の農場長として酪農

に従事した後、離農した牛舎を借りて2020年に独立を果たしました。その後の地域への溶け込み方は、借地拡大や機械共同利用による粗飼料の自給基盤充実だけでなく、地域からの粗飼料購入により低コストの実現につながっています。さらには、農商工連携によって付加価値向上へと展開しています。それだけではなく、子ども食堂や障がい者施設を通じて地域社会との協働にも取り組んでいます。



家族経営からの脱却
～人材管理による安定経営を
目指して～
中部酪農青年女性会議
伊藤志穂子氏

伊藤さんは、非農家に生まれ、酪農家との結婚後も農作業には携わりませんでした。規模拡大と従業員の退職を機に酪農経営に参画すると、学生アルバイトや結婚前の就職先での経験が働き方改革に活かされ、作業改善を組織改革に昇華させ、人材育成に結実しました。そうした従業員の活躍が高い生産性につながっています。更には、育成した人材のキャリアと地域の人

手不足を結びつける仕組み作りは、地域経営の構想とも言えます。



畜産危機を乗り越える
新規就農者の生存戦略
北海道酪農青年女性会議
大宮睦美氏

大宮さんは、2017年に第三者経営継承により新規就農しました。大規模な土地を活用して資源循環型で栄養価の高い牧草を生産しています。それにより牛の能力を引き出して高い生産性を実現するだけではなく、粗飼料販売を新しい部門として確立し、今後も地域の農地の維持管理や新規就農者の受け入れにつながることが期待されます。



これからも親子で継承する
酪農経営を
東北酪農青年女性会議
羽隅匠氏

羽隅さんは、農家としては20代

目、酪農は曾祖父の代に遡ります。幼い頃から牛舎で遊び、手伝いながら「後世の羽隅家も家業として継承し続けられる酪農経営になりたい」との思いを強めます。50年前の牛舎やタワーサイロを大切にしたい借入の少ない健全経営である一方、ゲノム解析などデータを活用した新技術の導入にも積極的です。今後の成果が期待されます。



ゆとりを持てる酪農経営を
目指して
西日本酪農青年女性会議
福田寛氏

福田さんは、祖父の代からの酪農経営に2000年に就農し、2022年に経営移譲を受けました。特筆されるのは、体細胞数が10万を切る乳質に象徴される品質管理へのこだわりです。堆肥の品質も高く、粗飼料自給にも繋がっています。焦点を絞っているから様々な飼養管理技術がかみ合っており、経営の好成績につながり、目指している「ゆとり」を生み出すのでしょう。



高能力、低コストで目指す
安定経営
九州酪農青年女性会議
高木大輔氏

高木さんは、祖父の代からの酪農経営に、北海道や北米での実習を経て、2011年に就農しました。自給飼料基盤の充実を図るだけでなく、足りない分はエコフィード資源の発掘に務め、低コストを実現しています。低コストと牛への負荷低減を方針の二本柱として「とりあえずやってみる」ことによる繁殖管理や飼料設計等の様々な工夫が、生産性、収益性、財務の健全性、いずれの指標でも高い成績を実現しています。

全体を通して、審査委員が今年度の評価を通じて感じたことは、次の通りです。

まず、皆さん、資材価格をはじめとした生産費が高値で推移する厳しい取引条件の下でも、しっかり収益を確保していることです。その背景には、飼料の調達を、粗飼料自給

の基盤である農地の確保だけでなく、その基盤が乏しい場合にはエコフィードの原料となる地域資源を活用することによって、低コストを実現していることがあげられます。

その際に求められるのは、経営内部の管理だけでなく、地域というステークホルダーとの関係をマネジメントすることです。そういう意味では、地元生まれ育った皆さんの苦労も大変なものです。新規参入の

方々の努力はいかばかりかと察します。そのような努力は自分の経営に向けるだけでなく、地域全体のマネジメント、そして持続可能性にも向けられており、その姿勢には感謝いたしました。

審査結果ですが、6つの審査基準全般で好成績をあげた九州酪農青年女性会議の高木大輔さんを最優秀と決定いたしました。審査委員一同、

6つの基準で一歩リードし、収益性でもずば抜けていると評価をいたしました。

今回の発表者は、今までの大会に比べて家族労働力主体の経営が大半を占め、経産牛飼養頭数も100頭を上回るころが少なかったと感じました。安価な輸入飼料を前提とした規模拡大で収支を維持することが難しくなった状況が反映されたものと思います。だからといって自給飼料だけで低コストを実現しているわけではありませんでし

た。地域資源に目を向けたエコフィードを活用している事例も増えてきたと感じます。このようなことから強調したいのは、酪農や農業といった枠を超えた地域との関係性が大事であるということです。

この話は労働力不足の問題にも繋がります。家族労働力主体であつても、雇用と無縁の経営は考え難いのが現実です。しかし、人がいない、いてもすぐに辞めてしまう、という問題をどこでも抱えているでしょう。そこには人材育成、キャリア形成という視点が欠けています。とはいえ、

地方で零細な規模でそれを実現するのは困難です。それならば、異業種が集まり地域でいろいろな仕事をしてみらい、適性を見極めながら能力を磨き、キャリアアップも考えられるような、事業協同組合のような形もあるのではないのでしょうか。

こうした柔軟な雇用に対応するためには、地域的な連携だけでなく経営内部で仕事の見直し、要件定義と細分化が必要となります。難しい作業ですが、それによって作業能率の向上、生産性の向上に繋がりが働き方にゆとりが生まれます。

今回は家族経営が多く、大規模経

営の難しさを感じたと述べました。全国的に大規模化の傾向が続く一方で、中小家族経営なくして酪農産業全体として持続性を確保できるのでしょうか。規模にかかわらず生産性の向上が求められ、技術や設備の導入は必要になります。そうすると管理の対象が広がり複雑なマネジメントを行わなければなりません。粗飼料基盤、糞尿処理、労働力、スキルなどを地域全体でカバーし合うことによって、酪農経営の維持発展が可能になるのではないかと期待しています。

そのような点についても、今回の発表者には可能性を感じさせるところがありました。発表者の方々にとどまらず、皆さんのネットワークを、まずは非酪農、非農業も含めて地域に広げていただきたいと思います。

(審査委員長 原田淳)

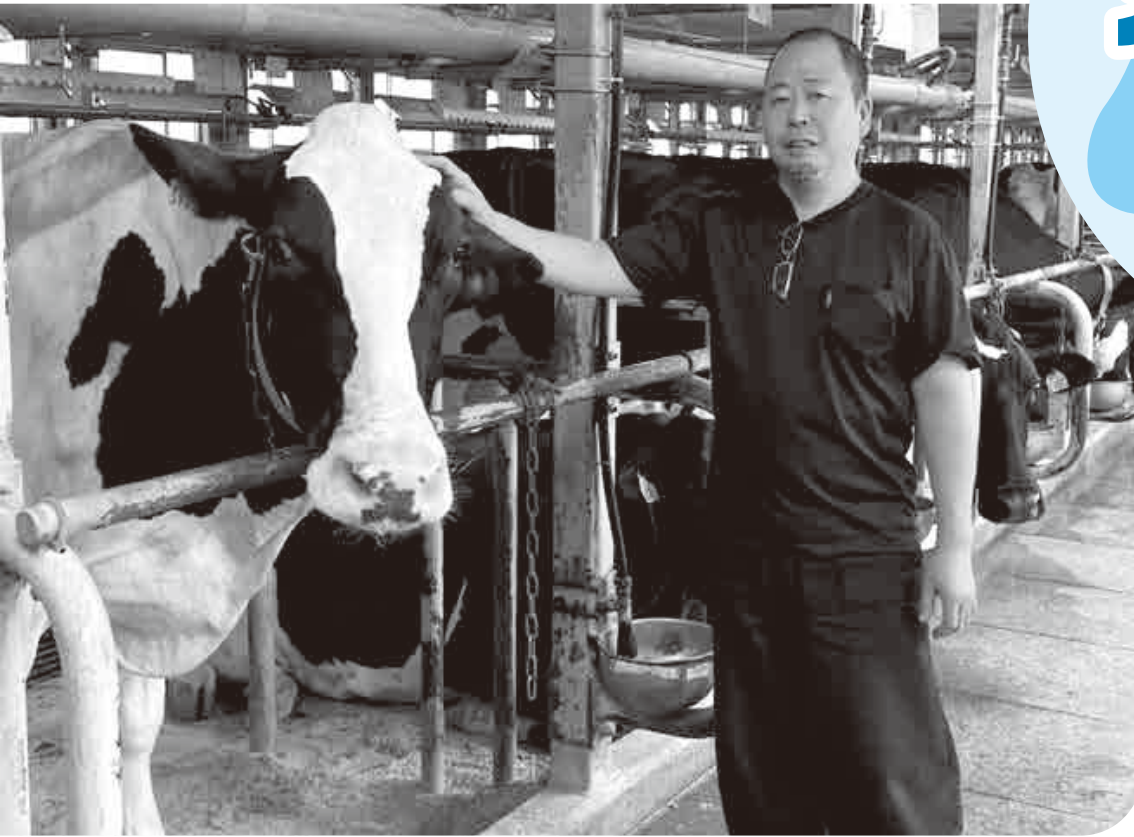
酪農意見・体験発表
の様子は、次号に
掲載します。



▲ 農林水産大臣賞を授与される高木さん

前田牧場

大阪府堺市

持続でざる堅実な
酪農経営を目指して

▲ 前田拓哉さん

地域の特徴

今回ご紹介する牧場は、大阪府堺市の前田牧場です。所属している堺市畜産農業協同組合（小西亨代表理事組合長）は酪農家戸数9戸（令和7年6月30日現在）、出荷乳量5,300t（令和6年度実績）です。現在の経営者である泰二さんの息子さんの拓哉さんにお話を伺いました。

大阪府堺市は大阪府の中南部に位置し、大阪府で人口、面積が第二の政令指定都市です。7つの行政区から成り立っており、現在は人口約82万人を有しています。「堺」の地名は旧摂津国と旧和泉国、旧河内国の「境」に発展したことからつけられたといわれています。堺市はものづくりが盛んでその1つに大阪府の伝統工芸品に指定されている「堺線香」といわれる線香があります。16世紀



の終わり頃に中国から製法が伝わり、日本で初めて線香を製造したといわれており、現在までその伝統技法が



大阪府堺市



▲ペレット加工した堆肥

受け継がれています。また、堺市は府内で最も農業が盛んな地域であり、総農家数、耕地面積が1位となっています。都市での農業なので、消費地の近郊であるという特徴を生かし、特に春菊や小松菜などの軟弱野菜の栽培が盛んです。また、南部では温州ミカンの栽培も盛んに行われており、ミカン狩り体験もできます。

堺市畜産農業協同組合

堺市畜産農業協同組合は堺市南区に位置し、全国でも珍しく、9戸で酪農団地を形成しており、5,300tの生乳生産量は大阪府の

約7割を占めています（2024年度）。酪農家は団地外に居住しており、毎日朝夕の2回出勤しています。団地形成は、都市の発展による人口の過密化により、昭和43年に組合を設立、山林を開拓し、昭和46年2月に完成しました。昭和55～56年には天日乾燥と発酵を組み合わせた大規模な堆肥センターと尿処理装置を設置し、平成2～3年には良質堆肥製造の目的で発酵乾燥棟、堆肥の自動袋詰装置の増設をしました。令和6年2月には堆肥のペレットマシーンも導入し、同年5月より稼働しています。現在は、粉末とペレットの2形態での販売を行っています。

堺市畜産農業協同組合の地域とのつながり

毎年11月に行われている堺市農業祭に出展し、団地内の子牛への哺乳体験を実施しています。堺市内に住んでいる方でも市内に牛がいることを知らない方も多く、堺市に牛がいることを知ってもらいたい良い機会となっています。また、堆肥のサンプルを配布し、好評をいただいています。コロナ前までは団地内の空いた場所に芋を植えて芋ほり体験等も

行っていたそうです。

前田牧場

前田牧場の現在の飼養頭数は搾乳牛80頭、乾乳牛14頭の計94頭で、育成は弊会の預託を利用しています。日乳量は約2,400kgです。対尻式の72頭収容可能なつなぎ牛舎は、2021年に建てられました。入りきらない搾乳牛は旧牛舎にて飼養しており、バケットで搾り、新搾乳舎のバルククーラーへ運んでいます。新搾乳舎は長野県の知り合いの方の牛舎を参考に設計されたそうです。前田牧場は拓哉さんのおじいさま



▲2021年に建てた新搾乳舎



▲旧搾乳舎

が酪農を始めました。当時は団地ではなく自宅のそばで酪農を経営されていたそうです。息子である泰二さんは5人兄弟で、そのうち4人が酪農を継ぐこととなりました。泰二さんの代で、堺酪農団地に移動し、団地へ移動したタイミングで4人がそれぞれ独立し、現在の場所で酪農をされています。

現在は牧場主の泰二さん（76）、息子の拓哉さん（48）、拓哉さんの奥様、従業員1名での計4名で仕事を分担しています。搾乳は全員で行い、泰二さんは哺育管理、拓哉さんはTMR調製、従業員は清掃を担っています。

拓哉さんは結婚後、30歳頃で実家

に戻って酪農をしようと考えていたのですが、高校卒業後、2年ほど造園関係の仕事に就き、予定より早く酪農に就きました。また、拓哉さんの奥様は酪農とは関係ない家庭のご出身で、当初は手伝ってもらう予定はなかったようですが、重労働で腰を痛めてしまった拓哉さんを見て、奥様から手伝ってくれるようになったとのこと。拓哉さんの息子さ

んは、大阪府立農芸高校に通っており、進路については大学進学も視野に入れているから選んでいくそうです。拓哉さんは自身が高校卒業後自由にさせてもらっていたことから、息子さんにも好きな選択をしてほしいとのこと。

給与体系

牛舎内にはTMR用の自動給餌機

とミキサーがあり、搾乳牛へはTMRを給与しています。

TMRの内容は配合飼料、購入WCS、ビール粕、購入乾草（スーダン、オーツ、チモシー）となっています。

自動給餌機は1日に6回で、冬

場は5時、8時、10時、16時、19時、21時に給餌しています。

夏場は5時半、8時、10時、16時半、19時、21時の6回です。冬場は1日に1回16時の給餌後に1日分を作りますが、

夏場は二次発酵を防ぐため、5時と16時の給餌前の2回に分けてえさづくりをしています。また、梅酒の搾りかすを入れることで、熱の発生を防いでいます。夏場は5時半と16時半のTMR給餌前にスーダンを手やりで給与しています。

今後の目標

拓哉さんは堅実な酪農経営で、牛を倒さないこと、牛に無理をかけないことを常に心がけています。もと

もとの搾乳牛用つなぎ牛舎には左側に数頭の搾乳牛と乾乳牛、右側に子牛がいますが、牛舎の手前側を乾乳牛、奥側を子牛用にして、哺乳口ロボットを導入したいと考えており、現在実現に向けて計画中です。

終わりに

この度はご多忙のなか、取材にご協力いただき、ありがとうございました。今回お話を伺った拓哉さんも自分の意思で酪農をしており、息子さんも酪農の道に興味はあるようです。このように思えるのはおじいさまや泰二さんがしっかり経営されてきたからだと思いました。

堺酪農団地がこれからも長く続い

ていくよう全酪連の一員として、前田さんをはじめとした、堺酪農団地の皆様をサポートしていきたいと思っています。前田牧場、堺市畜産農業協同組合のますますのご発展をお祈り申し上げます。





父の日に

牛乳

今年も全国各地で
キャンペーンを実施!

を贈ろう! 後編

山形県

●山形県酪農青年女性会議

日時：6月28日(土)

場所：ミルクランド

モウモウフェスティバル

(山形県酪農協本所特設会場)



●茨城県酪農青年女性会議

日時：5月30日(金)

場所：水戸駅

内容：ミルメークとチラシを配布



日時：5月30日(金)～6月15日(日)

場所：水戸駅のミルクスタンド

「milsta【ミルスタ】」

内容：茨城県牛乳普及協会運営の
ミルスタにてポスターの掲
示と似顔絵の募集・掲示



茨城県

栃木県

●栃木県酪農青年女性会議

日時：6月1日(日)

場所：栃木県内 道の駅もてぎ、道の駅明治の森

内容：牛乳試飲、PRグッズの配布



日時：6月16日(月)

場所：栃木県那須町役場

内容：那須町長表敬訪問、
牛乳贈呈



日時：6月5日(木)

場所：栃木県庁

内容：県知事表敬訪問、牛乳贈呈



群馬県

●群馬県酪農青年女性会議連絡協議会
●群馬県牛乳普及協会

日時：6月6日(金)

場所：高崎駅

内容：昨年に引き続き、6月の牛乳月間が高崎駅前では消費拡大や理解醸成に繋げる取り組みを実施。牛乳の栄養価の高さ、夏バテ防止などの魅力を紹介するチラシ、ミルメーク、牛乳1,500本(200ml)を配布。地元乳業(榛名酪連)が製造した県産牛乳をPR。



日時：6月19日(木)

場所：群馬県庁

内容：県知事表敬訪問、牛乳・乳製品贈呈



●三重県酪農農業協同組合

日時：6月27日(金)

場所：庄司東牧場(松阪市)

内容：地元の小学生が庄司牧場を見学、参加者にミルメークを配布し消費拡大をPRした。



埼玉県

●埼玉酪農業協同組合

日時：6月14日(土)

場所：JA花園農産物直売所

内容：地元の乳業メーカー(西武乳業)に協力をお願いし、500本の無償配布を実施。「今の時代、無料配布はありがたいです。」等、来場者の皆様にも大変喜んでいただけた。



場所：県内保育園

内容：今年も園児にミルメークと似顔絵用の画用紙を配布し、父の日に合わせ似顔絵と一緒に「牛乳をおくろう」とPR



三重県

●大山乳業農業協同組合青年部会・酪農女性部

日時：6月1日(日)

場所：白バラミルクフェスタ2025
(大山まきばみるくの里)

内容：牛乳試飲、おすすめ乳製品の試食、牛のエサ展示、骨の健康チェック等のイベントを実施。酪農講和、バターづくり。



日時：6月8日(日)

場所：鳥取県庁

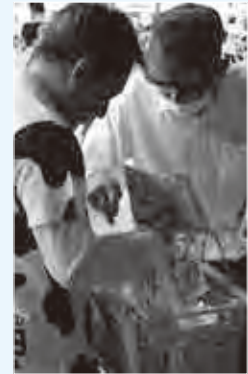
内容：お父さんを代表して知事への牛乳贈呈。
牛乳で乾杯をし、日ごろの支援について感謝を述べるとともに、今後も一層の支援をお願いした。

●おかやま酪農農業協同組合 女性部・青年部

日時：6月6日(金)

場所：岡山県庁、JR岡山駅

内容：県庁を訪問し、安全安心でおいしい県産牛乳・乳製品を届けるための支援を依頼し、県産牛乳と県産生乳を使用したヨーグルトの目録を贈呈。JR岡山駅前では、リーフレットやグッズ、ミルメーク等を配布、牛乳の消費拡大をPRした。



●広酪メンバーズクラブ

●広島県酪農業協同組合

日時：6月1日(日)

場所：壬生の花田植 (広島県山県郡北広島町)

内容：北広島牛乳をPRし、参加者にミルメーク等を配布、搾乳体験による酪農の理解醸成活動を実施した。



日時：6月7日(土)

場所：魅力ときめくミルクイベント
(LECT 広島)内容：みんなで牛をたのしもお〜と、牛さんからの
おくりものをおいしく！たのしく！伝えるイベントにて、来場者へグッズやミルメークを
配布。イベントステージでは牛乳そんぐを
歌って踊る他、疑似搾乳体験、アンケート、
牛乳トレカ、牛乳パック工作等を盛りだくさん
なイベントを開催した。

山口県

●山口県酪農青年女性会議

日時：6月15日(日)

場所：ボートキッズパーク モーヴィ下関

内容：・県産牛乳・酪農のPR
・牛乳試飲・牛乳パック工作、搾乳キット体験
(山口県酪農乳業協会との活動)



大分県

●大分県酪農青年女性会議

日時：6月13日(金)

場所：大分県庁

内容：大分県知事へ牛乳・
乳製品の贈呈と
消費拡大への要請



日時：6月15日(日)

場所：パークプレイス大分

内容：搾乳体験、
子牛ふれあい体験、
牛乳・ツール配布

福岡県

●ふくおか県酪農業協同組合

日時：6月22日(日)

場所：ラッテビアンコ

内容：似顔絵作成、
ミルメーク配布



●熊本県内組合青壮年部、女性部

日時：6月5日(木)～6月15日(日)の間

場所：保育園、各市町村長

内容：保育園への牛乳配布、
各市町村長への牛乳贈呈



熊本県

●宮崎中央地域酪農協議会

日時：6月5日(木)、9日(月)、11日(水)、12日(木)

場所：宮崎市役所、川南町役場、木城町、新富町役場、
JAみやざき宮崎中央地区本部・
尾鈴地区本部・児湯地区本部

●JAみやざき延岡酪農振興会

日時：6月5日(木)

場所：JAみやざき延岡地区本部

●西諸県都市酪農青年女性部
連絡協議会

日時：6月5日(木)、

13日(金)、26日(木)

場所：高原町役場、小林市役所、
えびの市役所、
JAみやざきえびの市地区
本部・こばやし地区本部

●串間酪農協議会

日時：6月6日(金)、
10日(火)、
13日(金)場所：串間市役所、
日南市役所、
JAみやざきはま
ゆう地区本部・
串間市大束地区
本部●都城地区酪農青壮年部連絡協議会
●JAみやざき都城女性部酪農部会
●南部酪農女性部

日時：6月12日(木)

場所：三股町役場、都城市役所、
JAみやざき都城地区本部

酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和7年度クレーム対応研修」の開催について

酪農部が事務受託している全国農協乳業協会（濱名靖会長（榛名酪農業協同組合連合会 代表理事専務））において、令和7年7月2日13時～17時に8会員11名の参加を得て「令和7年度クレーム対応研修」を開催いたしました。

令和5年度より開催している本研修会は、ANAビジネスソリューション(株)より講師を招聘し、営業職・お客様相談室等の職の方々に向けて、クレームがどのような顧客心理から発生するのか、その顧客心理を理解し、どのように対応することが望ましいのかを学んでいきました。

今年度は通常内容に加えて、カスタマーハラスメントとクレームの違いについてや、もしカスタマーハラスメントのような問い合わせがあった場合に、どの

ように対応をすればいいのかについても学んでいきました。

研修終盤には、事例研究として「自社のミスによるクレーム」と「お客様のミスによるクレーム」の2つのテーマについて、グループワーク及びロープレを実施しどのような対応が望ましいか学んでいきました。応対時の言葉の使い方や、「傾聴」の姿勢の大切さについて講師よりアドバイスがあり、受講生からも無意識に相手を言いくるめる様な話し方や、不適切な言葉遣いに気づく時間となりました。

冒頭講師より、何か製品不良等があった際に、声を上げて問合せをする方は少ない中で、その中に業務改善のきっかけになると解説があり、お問合せ対応時の重要性を感じる研修となりました。（A.Y）



▲ 受講風景

酪農部
発「第8回らくのうマルシェ」が
酪農会館で盛況裏に開催！

2025年7月5日(土)に東京・代々木の酪農会館エントランスで「第8回らくのうマルシェ」が開催されました。梅雨の晴れ間となったこの日、会場には多くの来場者が詰めかけ、こだわりの牛乳・乳製品を求める人々で賑わいました。

会場では、全国各地の会員・農協乳業が製造・販売する「地牛乳」をはじめとする各種乳製品がずらりと並びました。さらに、本会が取り扱う全酪ブランドの経産牛肉の直売コーナーも設けられ、来場者の注目を集めました。

今回は、酪農の6次化の取り組みも紹介され、2024年設立の愛知県豊田市のチーズ工房「ファー

ベル」のフレッシュチーズもPRされるなど、近隣住民や通りがかりの人々に対し、様々な国産酪農生産物の消費拡大を強く訴えかけるイベントとなりました。

また、本会は農林水産省と（一社）Jミルクが立ち上げた「牛乳でスマイルプロジェクト」に参加しており、会場内には「土日ミルク」のポスターやのぼりが掲示されました。そして乳価引上げに伴う牛乳等の価格改定を控える時期の開催となったこともあり、牛乳消費拡大や酪農理解促進に向けた業界一丸の取り組みを伝える一日となりました。

次回の「らくのうマルシェ」も、ぜひお楽しみに！
(A.M)



札幌
支所発夏場の購買牛への希望など、活発に意見交換
「令和7年度 畜産主任者会議」

6月27日(金)本会札幌支所主催、令和7年度北海道・都府県畜産主任者会議を開催し、道内と都府県の乳牛購買の担当者他65名にご出席いただきました。

畜産事業説明に続き、基調講演として福島県酪農業協同組合 復興牧場設立準備室長 柳沼鉄治様より、同組合における復興牧場「シャイン・コースト株式会社」についてご講演をいただきました。

福島第1原発事故により62戸の廃業、日量30tに

も上る大幅な生乳生産基盤を失い、その後の離農も重なり現在同組合では出荷個数100戸、年間生乳生産量は37,000tとなっています。そのような中で、シャイン・コースト(株)においては年間13,000tの出荷を想定しており、将来にわたる生乳生産を期待されているとのこと。また、基本的な牧場機能のほかに、本会酪技研や地域大学との連携による研究施設としての機能、被災地区の酪農家の就労や学生インターンや研修の受け入れ、それによる町とし

て期待している移住の促進など多面的な役割を担っていることを紹介され、最後に「支援をいただいた皆様に迷惑をかけないようにしっかり事業運営に当たりたい」と締めくくり会場からは大きな拍手があげられました。質疑応答では、導入牛の希望について「ロボットに合う乳頭配置の良い牛を作っていただけるとありがたいです」とお話しされました。

講演に続いて、都府県並びに北海道による情報交換が行われました。昨年に続き、経営環境の悪化や県内流通の増加に伴い導入意欲低下の報告が目立つ一方、組合独自の事業の紹介や、秋以降の導入は増える見込み、との報告がありました。夏分娩について価格の高騰や事故の予防から買い控える動きがあるとの報告もあり、近年の猛暑における購買牛に対して、移動時間の短縮の提案や、移動を見越して重めに作ってほしいという意見、また通年を通して粗飼料によるコンパクトでしっかりした牛を希望したいという声が上がりました。

閉会の挨拶に立った本会理事である本別町農業協同組合 佐野政利組合長は、「全酪連は都府県と北海道の酪農家の橋渡しをする立場であり、このような研修を通じてお互いの心の交流をすることが大切と考えている。食料・農業・農村基本計画において設定された生乳生産目標を全国で達成できるよう、一丸となって改良を進めていきたい。」と呼びかけ、会を締めくくりました。(T.H)



▲ 佐野理事による閉会挨拶



▲ 柳沼氏による講演、復興が進む現在の前向きな姿とともに当時廃業せざるを得なかった生産者の悔しさも伝わる講演であった



仙 台
支所発

「ホルスタイン共進会」& 「山形 ミルクランド モウモウフェスティバル」を 開催！（山形県酪農業協同組合）

山形県酪農業協同組合（山口長一代表理事組合長）は令和7年6月28日(土)、「第32回山形県酪農業協同組合ホルスタイン共進会」並びに「山形 ミルクランド モウモウフェスティバル」を開催しました。

優良牛を一同に集め改良増殖の推進を目的とした共進会開催と共に一般消費者への理解を深める目的である当フェスティバルは、農機具の展示ブースやキッ

チンカー等の出店もあり、また牛乳プレゼント企画等を行っていることから今年も多く参加者で大変賑わいました。

当日は気温が高く、出品牛への配慮など特に関係者の皆様はお忙しく対応されておりました。ご関係者の皆様お疲れさまでした。（Y.O）



▲ ジュニアの部終了後の記念撮影



▲ 表彰者記念撮影の様子



▲ 農業機械展示の様子

仙 台
支所発

「第31回通常総会」・「研修会」を 開催しました（東北酪農専門団体協議会）

東北酪農専門団体協議会（小西善之会長（岩手中央酪農業協同組合代表理事組合長））は7月1日(火)江陽グランドホテル（仙台市青葉区）において、「第31回通常総会」並びに「令和7年度第1回研修会」を開催しました。

令和6年度の活動報告と共に令和7年度の計画等各議案について審議され決議がなされました。特に令和6年度は「食料・農業・農村基本法」が改正され「酪農及び

肉牛用生産近代化を図るための基本方針（酪肉近）」について議論が開始されたことに触れ、東北の酪農生産基盤について情報交換がなされました。総会終了後、一般財団法人食品産業センター 荒川隆理事長を講師に「食料・農業・農村基本法の改正と現下の農政主要課題」について研修会を開催し、現下の農政の主要課題等について理解を深めました。（Y.I）



総会の様子 ▲▶



◀ 小西会長

酪農いきいき フोटコンテスト

入賞作品紹介

酪農家の皆様より応募いただいた45点の中から、第52回全国酪農青年女性酪農発表大会の参加者の皆様による投票で入賞作品を6点選出させていただきましたのでご紹介いたします。
たくさんのご応募、ご協力ありがとうございました。

特賞

子宮捻転お産中がんばれ牛さん

東北酪農青年女性会議

吉田 明美氏



入賞



みんなに今日の出来ことを報告中

北海道酪農青年女性会議

村上 妙子氏



団子4兄弟

九州酪農青年女性会議

宮本 くるみ氏



今日も頑張るぞ

九州酪農青年女性会議

久野 はる氏



きれいにしてやるけんね!

九州酪農青年女性会議

田中 さとみ氏



じいじのお手伝い

東北酪農青年女性会議

木目澤 久實子氏

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏 名
■令和7年8月1日付異動発令 企画管理部 総合企画室長代理 兼 企画管理部付外向 (株)日本ミルクプレイサー 総務部 人事室長 購買生産指導部 副部長 兼 購買企画課長 兼 飼料製造課長 購買生産指導部 酪農技術研究所長 兼 酪農生産指導室長 購買生産指導部 畜産課長代理 品質保証室 室長 札幌支所 畜産課長 札幌支所 帯広事務所長代理 名古屋支所 購買畜産課長 大阪支所 次長 購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)本社 業務部長 購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)東海工場 工場長 兼 総務課長 兼 品質管理課長		安 藤 真 寛 東 健 太 郎 河 野 巧 下 田 宏 二 菅 谷 洋 平 丸 山 惣 太 郎 埋 橋 良 輔 生 野 剛 御 沓 正 志 佐々木 俊介 饗 場 克 也 大 山 幸 紀
■令和7年8月1日付昇進発令 東京支所 栃木事務所長 福岡支所 次長 兼 購買推進課長 福岡支所 指導組織課長代理 福岡支所 南九州事務所長代理		熊 倉 良 介 前 田 遼 太 前 田 ゆ かり 石 井 俊 祐
■令和7年8月1日付兼務発令 企画管理部 財務課長代理 兼 総合企画室 課長代理 札幌支所 購買推進課長 兼 帯広事務所長 仙台支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長		山 中 祐 介 山 中 新 中 嶋 仁
■令和7年8月1日付兼務解除発令 総務部 部長 購買生産指導部 部長 兼 分析センター長 仙台支所 支所長 東京支所 北関東事務所長		飯 島 洋 一 鈴木 有希津 渡 邊 和 典 加 藤 剛 士



全国酪農協会

新会長に隈部氏、全酪連会長と兼務
副会長は佐藤氏（北海道）、臼井氏（栃木）



▲ 隈部会長

（7月1日号）

全国酪農協会は6月24日、東京・元赤坂の明治記念館で第80回通常総会を開き、令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算など6議案を原案通り承認した。任

期満了に伴う役員改選で砂金甚太郎会長が退任。総会後の理事会で会長に隈部洋氏（全酪連会長）、副会長に臼井勉氏（栃木県酪農協会会長）がそれぞれ新たに選任され、佐

藤哲副会長（北海道酪農協会展長）と岡田征雄常務理事は再任された。また、新たに衛藤彰一氏（熊本県酪連理事）が理事に選任された。

令和8年度酪農関連予算

酪政連が自民・森山幹事長に要請
農水省には防疫対策強化求める

酪政連の柴田輝男委員長ら幹部は6月11日、森山裕自民党幹事長を訪ね、関連予算の増大など令和8年度酪農政策・予算確保へ要請書を手渡した。森山幹事長



▲ 左から宮本貞治郎副委員長、柴田委員長、森山幹事長、臼井勉副委員長、佐藤哲副委員長、清水清人副委員長

は「初動5年間の予算を確保できそう。本日の要請も政策に反映できるよう頑張りたい」と話した。このほか、▽牛乳・乳製品の消費拡大施策の実施▽自給飼料生産が不利な地域等に対する中長期的な支援施策の構築▽全国協調による需給調整機能の実効性確保及び対策▽有害鳥獣被害対策のさらなる強化▽畜産クラスター事業の弾力的運用——等を求めた。

また同日、国内外での家畜疾病の発生状況を踏まえ、農水省消費・安全局の安岡澄人局長へ家畜防疫対策の強化を要請。水際対策の強化や、国内で家畜伝染病が発生した際の迅速かつ的確なまん延防止に向けた取り組みへの支援を求めた。また、旅行者ごとの特色に応じた消毒対策の強化支援等、地域における家畜防疫体制の強化も要望した。

（6月20日号）

デンマーク関係者が来日

全酪連など生産者団体と情報交換 酪農情勢や協同組合の意義共有



▲ 酪農会館で開かれた情報交換会
左がラスムッセン常務、中央がアントン代表

日本とデンマーク双方の酪農組織の情報交換、関係強化を目的とした意見交換会が6月10日、代々木の酪農会館で開かれた。デンマーク酪農協会のラスムッセン常務理事、欧州酪農協会（EDA）のアントン代表の来日に合わせて開かれたもので、日本側からは、全国酪農業協同

組合連合会、中央酪農会議、酪農ヘルパー全国協会、全国酪農協会が参加し、酪農情勢や当面の課題、協同組合の意義等を共有した。

冒頭、歓迎のあいさつを述べた全酪連の隈部洋会長は「デンマークの協同組合の歴史は古く、集乳・加工・販売を行う組合が始まりで、1930年代には1万4千の組合があったと聞いており、日本の協同組合活動にとって大いに参考になるものだ。両国間においては農相の交流、民間の交流に加え、4月には国王陛下が来日され、日本との協力関係を重視されていることに感銘を受けた。ともに成長、研鑽し、互いに高みを目指せるよう意見交換したい」と呼びかけた。

デンマークの酪農と組織についてラスムッセン常務は「小さな国で小規模の酪農家が多かったが、牛乳・乳製品のバリエーションを、酪農家の立場で確立してきた。世界のなかで酪農の伝統と競争力を保持し続けるために、強力な協同組合を築き上げてきたのがデンマークであり、多くの小規模経営、家族酪農が代々受け継がれている日本のモデルになると思う」と紹介した。

また、欧州酪農の特長としてEDAのアントン代表は「欧州の酪農文化は協同組合精神によって形成されてきたと言える。決して大げさな表現ではなく、協同組合の競争力は強く、生産乳量の50%が協同組合によって製

品化されている。特にデンマークには強力な協同組合文化がある」と説明した。

デンマークの酪農家戸数は現在2200戸。担い手確保対策の具体的な内容についての日本側からの問いに対し、ラスムッセン常務は「協同組合にはコンサルタント、技術的専門家がおり、農家への助言、情報提供等手厚い支援を行っている。農家が農場でひとりぼっちにならないよう、気軽に相談できる体制になっている」と紹介した。

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円（税込・送料込）です。
- お支払（請求書到着後）は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。（見本紙にバックナンバーは含まれません）

全酪新報/
購読お申込フォーム



一般社団法人 **全国酪農協会**

電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org



（7月1日号）

ZENRAKU Summer Gift 2025

取扱期間 2025年 6月16日 ~ 8月29日 ※一部商品のぞく。

全酪乳製品セットA

税込**3,856円** (本体3,570円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/酪農家ぬるチーズ80g/酪農家バター（加塩）200g：各1個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 名入れ可

全酪乳製品セットB

税込**5,508円** (本体5,100円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/全酪ゴーダ125g/酪農家ぬるチーズ80g/酪農家バター（加塩）200g/全酪パウダーチーズ70g：各1個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 名入れ可

全酪 牛飼いのバター5個セット

税込**4,320円** (本体4,000円)



内容：牛飼いのバター（加塩）200g×5個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 名入れ可

その他にもたくさんの商品をご用意しております。
ぜひオンラインショップにてご確認ください！

ご注文方法

全酪連ギフトオンラインショップ
(<https://zenrakuren.stores.jp/>)



取扱上のご注意

1. 配送地区に制限のある場合もありますので、ご確認ください。なお、離島につきましては原則として配達できませんので、予めご了承ください。
2. お申込後のご返品、お取り消し（お届け先様ご不在、ご移転ご転居、受け取り拒否等による）扱いはいたしませんので予めご承知おきください。
3. お届け先様のご不在における取扱は、配送業者の取扱規定により対応します。
4. 掲載商品の価格には消費税及び配送料が含まれております。
5. 問合せ内容・商品デザイン及び配列については、お断りなく一部変更する場合があります。
6. 商品は十分にご用意しておりますが、在庫がなくなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。
7. **冷凍 冷蔵** マークの付いている商品はそれぞれ冷凍、冷蔵でのお届けになります。
8. **簡易 全** マークの付いている商品はそれぞれ簡易包装、全包装となります。また、表示のない商品には包装はありません。（簡易包装とは、包装紙を帯状に商品に巻きつけた包装形態のことです。）
9. **短冊 短** マークの付いている商品はそれぞれ普通サイズ、短冊サイズの熨斗となります。
10. **名入れ可** マークの付いている商品は熨斗の表書きにご指定の文字が入られます。商品によりスペースが異なり、全ての文字を入れられないこともございます。ご了承ください。
11. **お中元** マークの付いている商品は熨斗の表書きがお中元のみとなります。

全国酪農業協同組合連合会

●本所 酪農部
●札幌支所
●仙台支所
●名古屋支所
●大阪支所
●福岡支所

〒151-0053
〒060-0003
〒980-0014
〒460-0008
〒532-0011
〒812-0016

東京都渋谷区代々木 1-37-2 酪農会館
札幌市中央区北 3 条西 7-1 酪農センター
仙台市青葉区本町 2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ 8F
名古屋市中区栄 1-16-6 名古屋三蔵ビル 3F
大阪市淀川区西中島 5-14-10 新大阪トヨタビル 6F
福岡市博多区博多駅南 1-2-15 事務機ビル 7F

TEL 03-5931-8008
TEL 011-241-0765
TEL 022-221-5381
TEL 052-209-5611
TEL 06-6305-4196
TEL 092-432-2121

FAX 03-5931-8025
FAX 011-241-0769
FAX 022-221-5384
FAX 052-209-5614
FAX 06-6305-4899
FAX 092-431-6313

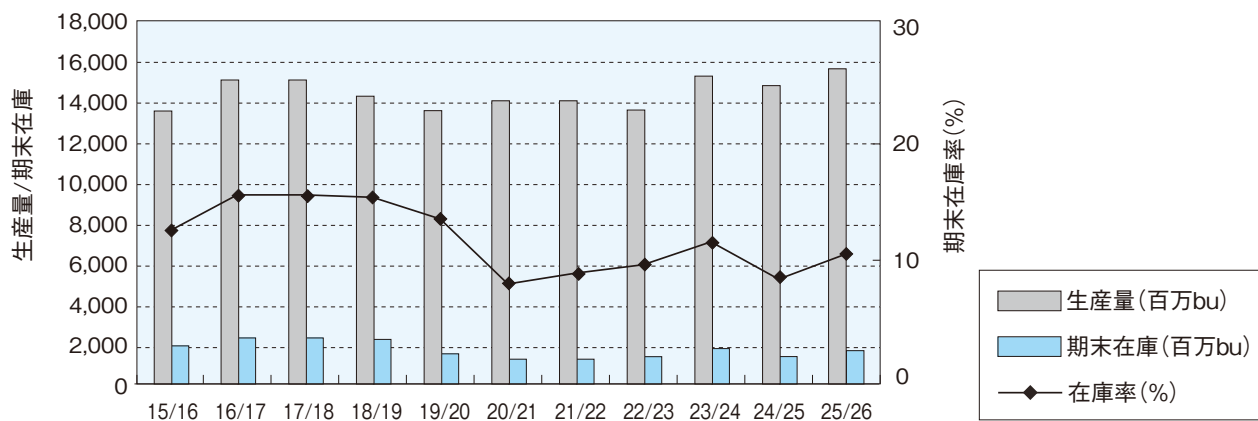


原料情勢

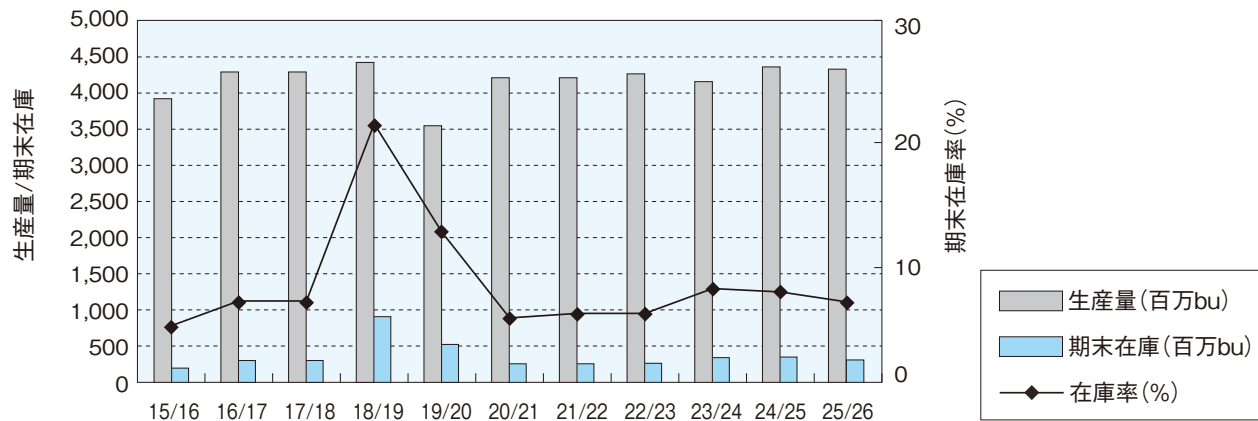
令和7年7月

7月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		24/25年産	25/26年産
	作付面積(百万エーカー)	90.6	95.2
	単 収(ブッシェル/エーカー)	179.3	181.0
	生 産 量(ブッシェル)	148億6,700万	157億500万
	需 要 量(ブッシェル)	153億1,500万	154億1,000万
	期末在庫(ブッシェル)	13億4,000万	16億6,000万
	在 庫 率	8.75%	10.77%
トウモロコシ 相場動向	今回の需給報告では旧穀、新穀共に期末在庫が減少したが、予想された数字であったことや、米国・南米が豊作見込みとなっていることから弱含んで推移した。今後は米国の天候は順調に推移する見込だが、海上運賃等に注視する必要がある。		
大豆粕 相場動向	米国・南米共に豊作予想なことからシカゴ相場は弱含みに推移している。今後は、天候相場になるが現在のところは作付進捗も順調で懸念はなしといえる。		
糖 類	【一般フスマ】 各製粉メーカーの稼働は概ね良好である一方で、飼料需要の減退から在庫が重い状況となっている。		
	【グルテンフィード】 7-9月期にて上げ改定だったものの、全国的に引き続き需要が強いためタイトな状況は変わらずとなっている。		
海上運賃	海上運賃は堅調。大西洋を中心に穀物や石炭などの貨物の荷動きが活発化し、船舶需給は逼迫。原油もやや堅調。中東情勢は、引き続き予断を許さない状況で、注視する必要がある。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和7年7月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸を中心とする航路では、本船スケジュールに乱れが生じており、主要な乗継航路を含め、慢性的な混雑が続いています。特に北米航路の一部が寄港するシンガポールでは、船の同時入港によるバンチング（停泊場所の利用が集中して着岸待ちする状態）で、最大2週間の滞船が発生しており、積替船への接続が長期化し、アジア地域にもスケジュールの乱れが波及しています。また、北米から中国への空コンテナ輸送も多くあることから、主要港である、寧波、上海、青島では沖待ちが多く発生しており、港湾混雑とコンテナ不足が深刻化しており、状況は好転していません。日本の主要港でも、混雑が深刻となっているため、一部の船会社は蔵置場所の確保のために荷揚げした貨物をオフドック（本船着岸岸壁から離れた場所）へコンテナを移送して置場所の確保を行っています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、25年産1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫作業が開始されています。軽度の降雨も発生していますが、現時点で大きな被害は出ていません。25年産の1番刈は、南部で降雨が続いたことで、色褪せた品質や、降雨を避けて収穫したことによる刈遅れの低級品が多く発生しています。中～北部では、南部と比較すると好天の日もありましたが、良品の発生は限定的となっています。産地では高値で販売したい生産農家と、安価で購入したい輸出業者の間で交渉が進まず、取引は昨年よりも鈍化しています。 ▲ 25年産1番刈アルファルファ 6月下旬コロンビアベースンにて撮影 (左:上級品 右:低級品) 【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が終了しています。6月中旬～下旬にかけて降雨が発生しましたが、多くの圃場では、降雨前に収穫が完了したため、大きな被害は出ていません。同州南部クリスマスバレーでは、局地的な降雨があったことから一部の圃場では雨あたり被害が発生しています。収穫された品質の多くは色目が綺麗な葉量が多い上級品ですが、生育期間中の気温の高低差により、ストレスが掛かり、生育不良の圃場もあったことから中級品も発生しています。 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、3番刈の収穫が終了し、4番刈の収穫作業が行われています。1～3番刈は成分値が高く色目が綺麗な品質が多く発生しています。4番刈以降は、気温が40℃を超える中で収穫となることから、成分値が低く、色褪せたサマーヘイが収穫される見込みです。灌漑局の発表によると、6月15日時点でのアルファルファの作付面積は145,699エーカーとなっており、前年同期の144,432エーカーからやや増加しています。中国向けの出荷は再開されていますが、先行き不透明の状況が続いており、輸出業者も慎重な姿勢で取引を進めています。
米国産チモシー	主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、1番刈の収穫作業が終了しており、同州エレンズバーグでは、終盤戦を迎えています。春先の冷涼な気候が続いたことや収穫期に好天に恵まれたこともあり、大半が上級品の発生で、低級品の発生は限定的となっています。もうひとつの主産地であり、非灌漑地域で多くのチモシーが栽培されているアイダホ州でも、現在1番刈の収穫作業が進んでいます。輸出業者は23年産、24年産の繰り越し在庫を保有しておらず、昨年同様に低級品の発生が限定的なことから買付は旺盛に進んでおり、産地相場は堅調に推移しています。
スーダングラス	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、収穫作業が本格化しています。収穫された品質は、茎が細く葉量が多い良品が発生しています。今後、夏場を迎え、更なる気温の上昇に伴い、茎が太い低級品の発生が見込まれています。灌漑局によると、7月1日時点でのスーダングラスの作付面積は25,049エーカーで、前年同期の14,577エーカーから増加しています。依然、多くの生産農家は産地相場低迷により、作付意欲が低いいため、2番刈に進まず、1番刈終了後に秋野菜の生産に備える見通しです。 ▲ インペリアルバレー スーダングラス 作付面積推移(単位:エーカー)
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫作業が終了しており、2番刈の収穫が開始されています。6月1日よりDIP（休耕地政策）が開始されていることもあり、一部の生産農家は生産を終了し、DIPへ移行していますが、大半は3番刈の収穫後に移行する見込みです。灌漑局の発表によると、2025年6月15日時点でのクレイングラスの作付面積は23,059エーカーとなっており、前年同期の21,241エーカーから増加しています。産地では24年産の繰り越し在庫も限定的となっており、生産コストの上昇相まって、産地相場は堅調に推移しています。 ▲ 25年産クレイングラス 1番刈 6月中旬撮影
豪州産 オーツハイ・ウィートストロー	25年産のオーツハイの播種作業は終了しています。降雨状況については、5月まで降雨不足が顕著でしたが、6月に入り地域によって異なる状況となっています。西豪州では、一部で降雨に恵まれたものの、主要な生産地域での降雨量が、例年の30%～50%となっており、収量を確保するには降雨不足となっています。南豪州でも降雨不足が続いており、例年の60%の降雨となっています。今後の予報も乾燥した日が続くことが予想されており、収量も大きく減少する見通しです。東豪州では、例年の150%を超える降雨がありました。現時点で生育も問題ない見通しで、今後も定期的な降雨が続けば収量も前年を上回ることが予想されています。 ▲ 25年6月 豪州全域の降水量 (http://www.bom.gov.au/より引用)

※粗飼料情勢の全文は弊会ホームページに掲載しています。

乳牛産地情報

令和7年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	↓	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で102.8%、累計で102.4%、苫小牧管内月計で102.7%、累計で100.7%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩が中心となります。道内外からの需要は、一定数あると見込まれますが、資源も豊富にあることから、価格はやや弱含みに推移するものと見込まれます。腹別の資源状況につきましては、雌雄選別腹・F1腹間わず潤沢に用意が可能です。出回り頭数は少ない管内ではありますが、高能力・高成績牛を多く取り扱える地域ですので、相場が落ち着いているこの時期での導入をおすすめいたします。
	初妊牛	50~60	⇐	
	経産牛	35~45	↓	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	23~33	⇐	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で105.3%、累計で104.3%、中標津管内月計で103.3%、累計で102.4%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩が中心となります。初妊牛に関しては、暑さが落ち着く秋分娩中心となることから、需要は回復傾向に向かいますが、出回りの資源も潤沢にあることから、相場は横這いで推移するものと見込まれます。暑熱による輸送リスクはあるものの、資源は確保しやすい状況と思われます。育成牛については、夏生まれの牛においては引き合いは弱いですが、牛成り中クラス以上は高値で取引されているため相場はやや弱含みで推移すると見込まれます。
	初妊牛	50~60	→	
	経産牛	38~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	20~30	↓	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.6%、累計で104.1%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩が中心の出回りとなります。導入需要は一定数あると見込まれますが、出回り頭数も多いことから引き合いはやや弱含みで推移するものと見込まれます。経産牛に関して、即戦力となる牛については、道内からの引き合いが見込まれておりますが、暑熱によるリスクが高いため、一旦相場はやや弱含みで推移すると見込まれます。育成牛については、夏分娩が期待される生まれ月が中心となりますので、需要は弱まっていくと予想され、相場はやや弱含みで推移すると見込まれます。
	初妊牛	50~60	⇐	
	経産牛	40~50	↓	
道北管内	育成牛(10-12月令)	20~30	↓	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.7%、累計で100.3%、北見管内月計で103.1%、累計で102.7%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩中心の出回りとなります。今年は北海道で猛暑日が記録されていることから、各地で緊急的な導入も考えられ、本管内においては、取引価格は強含みに推移すると予想されます。経産牛に関しては、初妊牛同様に暑さによる影響で生産性が低下する可能性が考えられることから、秋口にかけては即戦力となる牛の需要は強まると予想されます。そのため相場はやや強含みで推移すると見込まれます。育成牛については、夏分娩が期待される生まれ月が中心となることで需要は弱まり、相場は弱含みで推移すると見込まれます。
	初妊牛	55~65	↑	
	経産牛	35~45	⇐	
道内総括	育成牛(10-12月令)	20~30	↓	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は103.8%、累計で102.9%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、秋分娩中心の出回りとなり、需要は回復傾向となりますが、資源も潤沢にあることから相場はやや弱含みで推移するものと見込まれます。腹別の資源状況としましては、雌雄選別腹・F1腹ともに確保しやすい状況となっております。道内管内において、需要の見込に変化が見られてきております。猛暑の影響により生体取引が鈍い時期となっておりますが、例年、益明け以降、導入が活発になってまいります。資源確保はしやすい状況となっておりますので、導入計画がございましたらお早めに弊会担当者へご連絡をいただきますようよろしくお願いいたします。
	初妊牛	50~60	⇐	
	経産牛	38~48	⇐	

お詫びと訂正

●本紙7月号(No.718)5~9ページに掲載しました「父の日に牛乳を贈ろう! 報告 前編」熊本県酪農女性部協議会の内容に誤りがありましたので、謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 熊本農政局

<正> 九州農政局

●本紙7月号(No.718)10~13ページに掲載しました「第51回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介」総評および入選2の作者名に誤りがありましたので、謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 小幡莉奈さん

<正> 小幡莉菜さん

今月の表紙

今月の表紙は「第15回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただき特選に選ばれた作品「子宮捻転お産中 がんばれ~牛さん」(宮城県 吉田明美氏 撮影)です。



編集後記

- 毎日記録的な猛暑が続いております。熱中症に気を付けて、暑熱対策をしっかりとしながら、体調には十分気を付けてこの夏をのりきりましょう。
- 紙面でご紹介しましたが、7月17~18日、岡山市にて第52回全国酪農青年女性酪農発表大会が開催され、全国より460名を超える酪農家、関係者の方々にご参加いただき盛大に開催することができました。ありがとうございました。来年の第53回酪農発表大会は7月に沖縄県・那覇市で開催いたします。皆様と、また元気にお会いできることを楽しみにしています。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和7年8月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 8月号 No.719

●編集・発行人 飯島洋一

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



夏の牧場

会津若松市立謹教小学校 5年（東北） 矢柳 瑠乃

今月の入賞作品は…

会津若松市立謹教小学校 5年（東北）の矢柳 瑠乃さんの作品です。

牛舎の中で草を食べる牛さんとマスクをして働く長い髪のお姉さんとの安らかな時間が伝わってくる、ほのぼのとした作品です。薄い色使いで丁寧に濃淡が描かれていて、牛さんの体のボリュームや正面から見た顔の表情がうまく表現できましたね。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第51回らくのうこどもギャラリー」で全国304点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議